

地域母子保健の向上に関する衛生行政学的検討

分担研究者 小野寺伸夫（国立公衆衛生院衛生行政学部）
共同研究者 大森 彌（東京大学教養学部）
大嶋 戊・坂上 公友（日本システム開発研究所）
高野 陽・加藤 則子（国立公衆衛生院）
野村 瞭・高木 寛治・山下美代子（岡山県環境保健部）
鷹取 弘子（瀬戸地域保健所），橋本 真紀（灘崎町保健衛生課）
深井 愛子（総社地域保健所）
橋本 勢津（岩手県宮古保健所），加藤 伸二（岩手県環境保健部）
宮里 和子（国立公衆衛生院）
望月 久代（山梨県身延保健所），柴田真理子（埼玉県衛生短大）
黒川 慶子（習志野市役所）
星 且二・川島 志津・中川芙美子（国立公衆衛生院）

1 研究目的

21世紀を展望した基本施策として、母子保健の向上は健全な世代の継承と健康づくりの出発点からも期待されている。この際、母子保健を巡る政策課題をとらえ、現状、経過、対応の方策、将来展望等について体系的な考察を行い、地域住民の期待に応えるための政策、法制体系、計画、システム開発等の基本施策を構築し、今後の地域母子保健の向上に資することを目的としている。

2 研究方法

本研究に当たって、地域母子保健の歴史的展開、行政全体の位置づけ、現状の把握、施策の推進方策等を行政学、政策科学及び情報科学の視点から検討を行い、昭和61年度においては特に地域母子保健の実態と問題点の把握に努めた。把握の方法としては地域母子保健に関する住民要請と期待、基本施策に関する課題、関連科学技術とシステム開発の現状と意義等について検討を行うとともに、資料分析、実地調査、意見聴取を行い課題の検討を深めた。

3 研究結果と考察

本研究の検討を進めるに当たって、本研究が21世紀を展望した重要な基本課題の一つであるとの認識に立ち、より学際的な研究を位置づけるとともに地域活動の実態をふまえてつ展望的視点からの検討がより期待すべき方向であることが確認された。

1) 地域母子保健に関する住民要請と期待の検討

母子保健の課題は人類の歴史とともに存在するものであるが、地域母子保健施策は時代のもつ政治経済の影響を受けて発展又は停滞する傾向があり、国民生活と不可分の関係にある。かような特性を考慮しつつ地域住民の基本的要請でもある願いを結実する施策について絶えざる検討を行い地域母子保健の発展を方向づけることについての期待が大きい。『20世紀は児童の世紀である』との提唱スエーデンのエレン・ケイ女史からなされたが、地域母子保健の向上をより確かなものとする願いをも込めて世界的にも展開されている『ヘルス・ホア・オール』の21世紀展望の理念と直結するものでありヘルス・システムズ・リサーチの視点を包括し一層の課題検討が望まれている。

2) 地域母子保健の基本施策に関する課題の検討

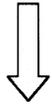
母子保健は生涯の健康な生活の基礎づくりの時期であることと、保健・医療・福祉・教育との密接な連携のもとで推進される特性を有している。そのため、国、自治体及び民間団体の活動について地域政策として位置付けを確かなものとし、計画としてのとらえ方をし、指導・管理・運営・調整・評価等においてシステムの発想を基調に実践することが重要である。これらの諸条件と地域社会の特性及び構造変化に伴う活動の実態についてマンパワー、機能の分担・連携、施設設備、市町村移管に対する不安要因等について今日尚多くの課題が残されている。

3) 母子保健に関する科学技術とシステム開発の現状と政策的意義の検討

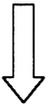
母子保健の基本理念を踏まえ近代的な母子保健に関する科学技術とシステム開発を方向づけることは課題への積極的対応からも望まれることである。そのため、高齢化社会の中での母子保健の位置付け、科学技術のアプリケーション、継続的対応としての行政のシステム化、人間性豊かな触合い・交流の促進方策、権限委譲に伴う地域格差や社会変化等を的確に把握するための情報システムの構築等の課題考察が必要とされている。

4) 地域母子保健の現状と課題の検討

今日、我が国の母子保健はおおくの課題を持ちながらも世界のトップクラスにあることは確かである。この水準を下回ることなく発展をはかることも重要な課題の一つでもある。そのためには、都道府県、政令市、保健所、市町村、学術団体、民間組織、保健医療関係者等の活動の実態を通じた判断がもとめられる。更に、婦人の社会進出及び核家族化に伴う問題、ハイリスク群・ボーダーライン層への対応の問題、小児精神保健問題、学校保健・思春期保健への繋がり的问题、健全育成関連問題、一次・二次・三次保健医療システム機能分担連携の問題等は今後一層、衛生行政学考察を有する課題であり、ライフサイクル全体を通じ包括的で一貫性のある総合施策の基本についての検討が求められる。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1 研究目的

21世紀を展望した基本施策として、母子保健の向上は健全な世代の継承と健康づくりの出発点からも期待されている。この際、母子保健を巡る政策課題をとらえ、現状、経過、対応の方策、将来展望等について体系的な考察を行い、地域住民の期待に応えるための政策、法制体系、計画、システム開発等の基本施策を構築し、今後の地域母子保健の向上に資することを目的としている。